

# 日本が世界の110位!?

～考えてみよう、わたしたちの生き方・働き方～



日本の世界ランキング「110位」とは、何の順位か知っていますか？

世界経済フォーラムが毎年発表する“男女平等ランキング”「ジェンダーギャップ指数」で、日本は149か国中110位であることが発表されました（2018年12月）。G7（主要先進国首脳会議）の中では、なんと最下位という結果です。少子高齢化による人口減少社会を迎えた日本では、労働力不足が深刻な課題であり、男女が共に活躍し協力し合いながら社会を支えていくことが重要となっています。他の国の現状や取り組みと比較しながら、私たち一人ひとりに何ができるのか、この機会に考えてみませんか？

## ジェンダーギャップ指数2018 主な国の順位 (対象：149か国)

※「世界ジェンダーギャップ報告書2018」(WEF)より作成

順位	国名
1位	アイスランド
2位	ノルウェー
3位	スウェーデン
8位	フィリピン
12位	フランス
14位	ドイツ
15位	イギリス
16位	カナダ
51位	アメリカ
70位	イタリア
110位	日本

トップ3は  
北欧諸国！

アジアで唯一の  
トップ10入り！

G7（主要先進国  
首脳会議）7か国

## 日本の男女平等度を、4つの分野別に見てみましょう！

※149か国中。指数を100点満点に換算

教育	<初等教育や高等・専門教育への就学における男女格差>	65位 (99.4点)
健康	<出生時の性別比、平均寿命の男女差>	41位 (97.9点)
経済	<給与、雇用数、管理職や専門職での雇用における男女格差>	117位 (59.5点)
政治	<議会や閣僚など意思決定機関への参画、国家元首の在任年数における男女差など>	125位 (8.1点)

### POINT

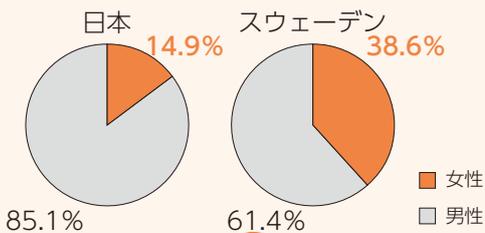
- \* 「教育」と「健康」の2分野はほぼ満点ですが、他の国も高得点なため差がつかません。
- \* 「経済」と「政治」の2分野が非常に低いことが影響し、110位という結果になっています。

## 日本と他の国では、経済・政治分野でどんな違いがあるのでしょうか？

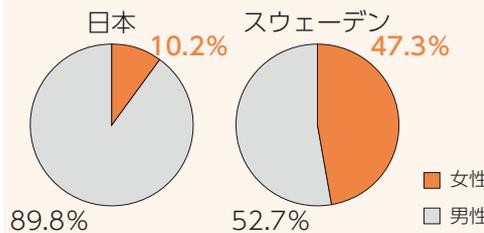
### ジェンダーギャップ指数 第3位スウェーデンと比較してみましょう！

- ① データブック国際労働比較2018 (JILPT) より作成
- ② 「議会における女性2019年2月」(列国議会同盟) より作成

#### ① 管理職※1)における男女比



#### ② 国会議員※2)における男女比



※1 会社役員、企業の管理職相当以上、管理的公務員等

※2 一院制または下院の比率。日本は衆議院の数値

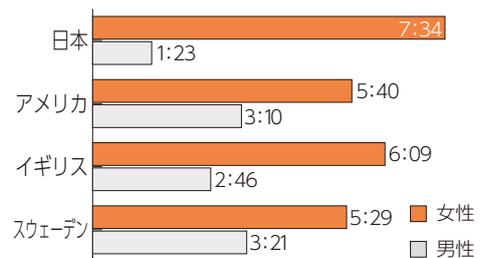
### POINT

日本では、出産後も就業を継続する女性は増えているものの、家事や育児のために非正規や時短での勤務を選択する人が多く、管理職や高度な専門職などをを目指すことは難しいという現状があります。

右図のように、世界的に見ても、日本の男性が家事・育児に関わる時間は非常に短く、家庭生活における女性の負担は大きくなっています。男性が「もっと協力したい!」と考えていても、現実的には長時間労働のため難しいという声もあります。

このような問題の背景として日本では、家庭や社会の中で、「男は外で働く」「女は家を守る」という『性別役割分業意識』が根強いことや、残業を当たり前とする風潮があることなどが挙げられます。一人ひとりの意識を変えなければ、男女格差は埋まらないのではないのでしょうか。

#### 1日当たりの家事・育児時間【男女比】



「6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間」※1日当たり、国際比較 (内閣府「令和元年度男女共同参画白書」より要約)

男女が対等で共に活躍するためには、どんな取り組みが必要なのでしょう。次のページで考えてみましょう!!

世界には、どんな生き方、働き方があるのか見てみましょう!!



フィリピン



フィリピンでは、管理職、専門・技術職の大半が女性。家事や育児は女性がするものという意識がありません。できない時は、家族や知人、プロにお願いして上手くこなしているようです。



デンマーク

(世界幸福度調査で常に上位)

家族の時間を大切にする、仕事に縛られない、見栄を張らない…などの時間の過ごし方や心の持ち方(ヒュッゲ)が大切にされています。



スウェーデン

育児休業期間18か月のうち、90日間は父親休暇(有給)として割り当てられています。これを母親が代わりに取得することはできません。



日本では…?



情報通信技術を活用した、場所や時間にとられない働き方「テレワーク」を導入する会社も増えています。



アメリカ



NPO法人全米専業主婦ネットワークなど、専業主婦同士の情報交換や助け合いをサポートするグループサイトがあります。



アイスランド

(ジェンダーギャップ指数10年連続1位)



1975年から継続的に行われている女性によるストライキ(女性の休日)。

2018年1月には性別による賃金格差を禁止する法律(罰則あり)が制定されました。

日本で子育てしやすい職場を探そうと思ったら…?ぜひ参考にしてみてください!



くるみん認定

厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づき、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業として認定した企業です。

日本では普通だと感じていても、世界を見渡せば新しい発見があるかもしれません。固定観念にとらわれず、無理をしない、自分なりの「生き方」「働き方」を見つけることができれば、誰もがいきいきと輝ける社会になるのではないのでしょうか。

そよかぜ協力員感想

- ★とてつもなく難しいテーマでしたが、若い方たちと編集に携わることができ、脳がだいぶ活性化されました。ありがとう…(とつと)
- ★今回、参加して「男女格差」だけではなく、世界と日本の違いや、日本のこれからの姿を考えるきっかけになりました。何もかもすぐに変えられなくても、意識から少しずつ変えていくことができればと思います。(シオ)
- ★さまざまな年代、立場の人たちと一つのテーマを話し合うことは、新鮮でとても勉強になりました。自分に関係ない目をそらさず、まずは知ること、そのためには目を向けることが大切なんだと思います。(ペー)
- ★協力員の皆さんは意識の高い方ばかりで、充実した議論ができました。(12年)

【Book コーナー】



世界各国のサンタが集まるサンタ協会。新しく立候補した初の女性サンタを認めるかどうか、議論が交わされますー。

各国の文化の違いや抱えている問題をさりげなく伝えながら、性差別や固定観念について考えさせられる、大人にも読んで欲しい児童書です。

短い文章でいくつもの深いメッセージを投げかけていますが、読むと幸せな気持ちになれる、心温まるお話です。【そよかぜ協力員】

「サンタのおばさん」  
東野圭吾・作/杉田比呂美・画(文藝春秋)

～♪それいゆぷらざ(女性センター)をぜひご利用ください♪～

それいゆぷらざでは、情報・交流コーナーにおいて男女共同参画に関する図書の出し出しや情報発信(情報紙や講座のチラシの設置・インターネット閲覧など)を行っています。また、団体登録も行っております。

※男女平等推進情報「そよかぜ」は、公募市民の企画・編集協力員と協働し、広報あさか9月号と3月号に掲載しています。

☎/それいゆぷらざ(女性センター) ☎463-2697